

平成27年度

香芝市議会  
行政視察研修報告書



福祉教育委員会

## 香芝市議会 福祉教育委員会

### I 概要

香芝市議会 福祉教育委員会 県外視察研修（平成27年度）

- 1 日 程 平成27年11月5日（木）～11月6日（金）
- 2 実施者 （委員長）奥山 隆俊 （副委員長）福岡 憲宏  
（委員）小西 高吉 （委員）中井 政友  
（委員）上田井 良二  
以上5名
- 3 視察地
  - （1）愛知県豊明市役所  
愛知県豊明市新田町子持松1番地1  
人口：68,609人（H27.10.1現在）  
面積：23.22km<sup>2</sup>
  - （2）愛知県大府市役所  
愛知県大府市中央町5丁目70番地  
人口：89,644人（H27.9.30現在）  
面積：33.66km<sup>2</sup>
- 4 視察事項
  - （1）豊明市・・・高齢者見守りサポート事業とけやきいきいきプロジェクトについて
  - （2）大府市・・・健康づくりとウェルネスバレー構想について

本委員会は、平成27年9月議会において上記のとおり派遣を議決され、視察事項のとおり研修を行った。

まず、11月5日の午後に豊明市役所を訪れ、視察事項についての説明を受けた後、豊明団地に向い、まちかど保健室についての説明を受けた。

翌、11月6日には大府市役所を訪れ、担当者からの説明を受けた後、ウェルネスバレー構想における施設の一つである「あいち健康プラザ」の視察を行った。

実施委員は、11月6日の夕刻に帰郷した。

## II 研修内容のまとめ

日 時：平成27年11月5日（木）

視 察 地：愛知県豊明市

研修内容：高齢者見守りサポート事業とけやきいきいきプロジェクトについて

### 【豊明市の概要】

愛知県のほぼ中央部に位置する豊明市は、東は刈谷市、北は東郷町、西は名古屋市、南は大府市に接しており、県内で30番目に市として誕生した。

快適な居住環境を備えた名古屋都市圏の住宅として発展する「新しいまち」という顔と、織田信長と今川義元が戦った桶狭間古戦場を有する「歴史のまち」というふたつの顔がある。

### 【豊明市における地域包括ケアの取り組みについて】

○地域包括ケアとは・・・2つのコンセプト

#### ・統合ケア

診断・治療・ケア・リハビリテーション・健康増進に関連するサービスの提供、組織をまとめる概念。

#### ・地域を基盤とするケア

地域の健康上のニーズ、健康に関する信念や社会的価値観にあわせ、地域社会による参画を保証しながら構築されるケア。



担当者から説明

○豊明市の医療・介護資源

#### ・医療資源

◆3病院（藤田保健衛生大学病院、桶狭間病院、藤田こころケアセンター、豊明栄病院）

◆診療所39箇所、歯科39箇所、薬局25箇所、訪問看護5箇所、訪問リハ4箇所

#### ・関連師会

◆医師会：東名古屋豊明市医師会

◆歯科医師会：愛豊歯科医師会豊明支部

◆薬剤師会：日進東郷豊明薬剤師会

#### ・介護資源

地域包括支援センター 2箇所、特別養護老人ホーム 4箇所、老人保健施設 2箇所、小規模多機能居宅介護 1箇所、認知症対応型共同生活介護 3ヶ所、

24時間訪問定期巡回型訪問看護介護 1箇所、居宅介護支援事業所 10箇所

### 【医療・介護連携事業 高齢者見守りサポート事業について】

《豊明市介護保険計画策定 市民ニーズ調査結果》

- ・方法／自記式シート（郵送にて回収）、H26.1月調査、回収率約60%
- ・有効回収数／高齢者本人調査：2,320票 家族介護者調査：197票

問. 今後、どのように介護を受けながら生活をしたいと思いますか。

「ひとり（または夫婦）で、介護保険サービスを活用しながら生活したい」・・・  
27.8%

「子どもや親族と同居し、介護保険サービスを活用しながら生活したい」・・・  
23.9%

「子どもや親族と同居し、家族介護を中心に介護保険などのサービスは利用しないで生活したい」・・・11.6%

問. 自宅での療養を難しくする要因は何だと思えますか。（複数回答可）

「家族に負担がかかること」・・・59.7%

「急変したときの医療体制が心配なこと」・・・23.7%

「自宅の往診してくれる医師や訪問看護ステーションが分からないこと」・・・  
14.4%

「病院から自宅を退院する際の手続きや自宅での療養準備が大変なこと」・・・  
8.9%

※在宅を望む声が約6割ある一方で、在宅療養に対する不安は大きいことが判明。

《いきいき笑顔ネットワークの概要》

在宅療養高齢者を中心とした医療福祉連携と見守り支援にネットワークを利用するもの。藤田保健衛生大学との在宅連携支援も実施している。

○いきいき笑顔ネットワークと見守りセンサーを活用した「見守りサポート事業」

#### ◆目的

1. 独居高齢者の孤独死、孤立死の予防
2. 緊急事態への早期発見・早期対応
3. 高齢者の健康づくり

◆取組み内容

1. 見守りセンサー
2. 緊急センサー機能
3. 万歩計機能

◆対象者（合計400名）

- |  |   |            |
|--|---|------------|
| <ol style="list-style-type: none"> <li>1. いきいき笑顔ネットワーク登録者</li> <li>2. 市内独居高齢者</li> </ol> | } | 民生委員に人選を依頼 |
|--|---|------------|

【けやきいきいきプロジェクト～豊明団地における地域包括ケアシステムづくり～】

《豊明団地の概況》

- ・昭和40年に建設（5階建て55棟 エレベーターなし）
- ・人口4,529人（約2000戸）のうち、65歳以上の高齢者1,144人
- ・高齢者のうち、ひとり暮らしは約270人（団地内の高齢者のうち23.6%）

《豊明市地域包括ケアに関する背景》

<p>◆学校法人藤田学園との包括協定 藤田保健衛生大学・藤田保健衛生大学病院との多分野での連携協力に関する包括協定締結</p>	<p>◆UR都市機構との包括協定 超高齢社会に向けた団地の地域の医療福祉拠点化に向けて包括協定締結（全国100団地拠点に選定）</p>
<p>◆愛知県地域包括ケアモデル事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・医療・福祉一体提供モデルとして実施（H26.4～H29.3の3か年事業）</li> <li>・豊明市北部地域をモデル地区とし、藤田保健衛生大学とともに事業展開</li> <li>・豊明団地に地域包括ケアシステムづくり・・・けやきいきいきプロジェクト</li> </ul>	

《ふじたまちかど保健室》

開室時間：平日10～15時

料金：無料

対象者：市内誰でも

対応者：看護・保健師、ケアマネ、理学・作業療法士、薬剤師

相談方法：面接、電話、メール

相談記録：利用者ごとの記録管理

主な相談内容：健康不安（8割）、薬剤、治療など

平均相談時間：30分程度



ふじたまちかど保健室

### 《6ヶ月間の実績》

- ・ 4月24日～8月31日 開室日数90日（平日83日）
- ・ 来室者・・・・・・・・ 1302人（平均14.5人／日）
- ・ 健康教室参加者・・・・ 680人
- ・ 教室開催数・・・・・・ 146回（平均4.6人／回）
- ・ 個別相談件数・・・・・・ 210件（平均2.3件／日）
- ・ 健康不安に関する内容が8割で、市外からの相談者や電話相談もあった。  
また近隣から精神疾患のある方の対応を依頼されたケースもあった。

### 【所感】

高齢者のサポート体制についての研修を行った。豊明市が取り組んでいたそれぞれの事業は、藤田保健衛生大学を中心とし、高齢者が安心して暮らせる社会の構築に取り組んでいた。

そのなかでも「ふじたまちかど保健室」という事業は、団地の空き店舗の一面を活用した事業となっていた。体力の維持・向上に努める教室や、健康相談を行い、さまざまな形で支援を行い、サポート体制が充実していた。

また、団地の一室をリフォームし、学生が入居しやすい体制をつくっていた。入居するためには、ボランティア活動への参加などの一定の条件はあるが、学生ボランティアの人員確保ができよう創意工夫も見受けられた。本市においても団地や医療機関の規模の違いはあるが、今後、実施していける事業なのではないかという声が、各委員からもあがった。

今後、ますます高齢化が進んでいく社会のなかで、高齢者をサポートし安全に暮らせるまちづくりの参考にしていきたい。

## II 研修内容のまとめ

日 時：平成27年11月6日（金）

視 察 地：愛知県大府市

研修内容：健康づくりとウェルネスバレー構想について

### 【健康づくりの取組について】

#### 《栄養・食生活》

目 標：適切な食生活を実践できる力を身につけよう

◆バランスの良い食生活をしよう

◆みんなで楽しく食べよう

◆生産者や調理をしてくれた人に感謝して食べよう

指 標	対 象	現状値(H24)	目標値
朝食を毎日食べている人の割合	3歳	95.1%	98.0%以上
	小学3年生	93.5%	95.0%以上
	中学3年生	82.1%	92.0%以上
	16歳～20歳代	68.0%	75.0%以上
	男性16歳以上	52.0%	60.0%以上
	女性16歳以上	80.6%	85.0%以上
家族等で一緒に食事をする人の割合	16歳以上	60.3%	63.0%以上

(一部抜粋)

#### ○おおぶで食活（たべかつ）食農入門講座

高校生～39歳までに若者の野菜摂取率向上のため、食や健康に関心をもつことを目的に、農業体験と料理、仲間づくりができる講座を健康部門、農政課、地元農業団体と連携し行っている。

#### ○親子料理コンクール「ビストロおおちゃん」

小学生ペア、親子を対象に募集し、優秀作品は保育園や小中学校の給食や市民活動センター「コラビア」のメニューとして提供している。

その他、食生活改善推進員による、各種料理教室も実施している。

#### 《身体活動・運動》

目標：日常生活の中で体を動かそう

健康部門と市民である健康づくり推進員やスポーツ部門、ボランティア、地元企業と連携し様々な事業を実施している。

指 標	対 象	現状値(H24)	目標値
日常生活において歩行または同等の身体活動を1日1時間以上実施している人の割合	40歳～74歳	45.8%	50.0%以上
1回30分以上の軽く汗をかく運動を週2日以上行っている人の割合	40歳～74歳	32.5%	37.0%以上

- 定例ウォーキング・大府シティ健康ウォーキング大会
  - ◆健康づくり推進員による定例ウォーキング
  - ◆大府シティ健康ウォーキング大会（11月）
  - ◆市制45周年記念「花と緑の健康ウォーキング」（27年9月）
- 大府シティ健康マラソン大会・ラジオ体操講習会
  - ◆大府シティ健康マラソン大会（11月）
  - ◆ラジオ体操講習会（7月）
  - ◆市制45周年記念「夏季巡回ラジオ体操・みんなの講習会」（27年8月）

### 【ウェルネスバレー構想について】

#### ウェルネスバレー基本計画

大府市と東浦町では、あいち健康の森とその周辺エリアを「ウェルネスバレー」と名付け、この地区が健康長寿の一大拠点に発展することを目指し、ウェルネスバレー基本計画を作成。子どもから高齢者まで幸せに齢を重ねられる社会「幸齢社会」を目指している。

#### ○あいち健康の森周辺の強み

あいち健康の森周辺は、独立行政法人国立長寿医療研究センターやあいち健康プラザをはじめ、健康・医療・福祉に関する施設が多数立地する全国でも有数の健康長寿分野関連機関の集積地である。

#### ○ウェルネスバレー推進協議会

##### ◆設立の意義

超高齢社会を前向きに乗り越えるための連携体制を構築し、先駆的な取組を推進する。年2回開催。

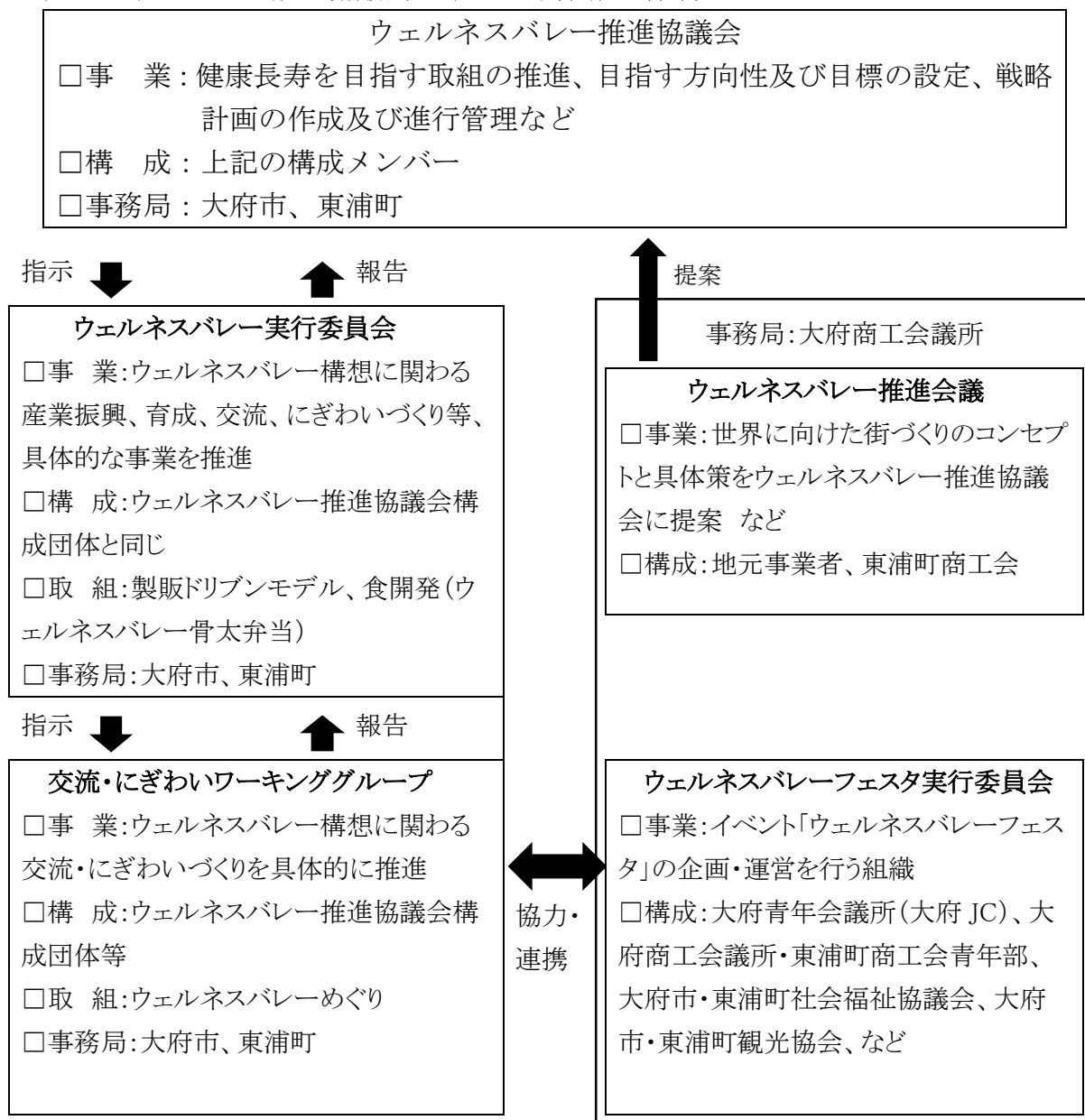


◆構成メンバー

- ・国立長寿医療研究センター
- ・あいち小児保健医療総合センター
- ・げんきの郷
- ・大府商工会議所
- ・東浦町商工会
- ・介護老人保健施設ルミナス大府
- ・あいち健康の森公園管理事務所
- ・大府市、東浦町
- ・愛知けんこうの森健康科学総合センター（あいち健康プラザ）
- ・学識経験者（至学館大学健康科学部など）

〈オブザーバー（関係機関）〉 中部経済産業局、愛知県  
 〈事務局〉 大府市、東浦町

○ウェルネスバレー推進協議会の下での事業推進体制



## ○活動のコンセプトと基本理念

### ◆活動のコンセプト

だれもが「ここに生まれてきてよかった（ここで子どもを育てたい）、ここで暮らしてきて幸せだった（ここで暮らしたい）」と思える「幸齢社会」を目指します。

ウェルネスバレーでは、「幸齢社会」の実現に向けて、先駆的な取組を推進します。

### ◆基本理念

- ・心身の健康が実現できるまちを目指します。
- ・交流・にぎわいを通じた元気（活気）があふれるまちを目指します。
- ・生きがいを持って働き、暮らせるまちを目指します。
- ・世代を超えてお互いを支えあうまちを目指します。
- ・地域に愛され、多世代に親しまれる農業を目指します。
- ・特色を活かした新産業の創出・育成を目指します。

## 【所感】

現在の大府市の状況から、目指すべき指標や目標値を具体的に定め、地域住民や地元企業などと連携し、健康都市づくりを進めていた。その事業の一環としてウェルネスバレー構想を進めており国、県や医療機関などと連携をとりながら、健康長寿の一大拠点形成を進めていた。非常にスケールの大きな事業であり、「あいち健康の森」のような広大な土地が必要であることや、また財政状況などから同様の事業を実施するのは難しいと思われる事業であった。しかし、ひとつひとつの事業を見ていけば、言葉遊びのような形で事業名をつけられている点など、市民に対する周知面での工夫が見受けられた。

福祉施策に限ることではないが、地域住民や地元企業、また国や県との密接な連携や協力関係が不可欠であることを再認識した。

報告者 福祉教育委員会委員長 奥山 隆俊